



北海道長沼町開拓の父

吉川鉄之助

左下の写真は、水沢区川原小路小公園にある石碑である。昭和六

十二年に建てられたもので、『長沼町開基の人吉川鉄之助が生まれた土地』という意味の言葉が彫ってある。『長沼町開基の人』とは、長沼町を新しくつくった人という意味である。

吉川鉄之助という人はどんなふうにして、長沼町をつくったのだろうか。

吉川鉄之助は、一八五九年（安政六年）九月、父太左衛門、母技勢のひとり息子として、水沢区川原小路で生まれた。

父太左衛門は、水沢の留守家に仕える刀や剣の研ぎ師だった。ところが、明治維新で徳川幕府や主家が倒れたので職を失い、農業をするか、まったく別の職につくかの二つの道しか残されていない状況になってしまった。

いろいろ考えたすえ、一家は鉄之助が十三歳の時（一八七一年）に、水沢の約二百名の人々と共に、北海道札幌平岸村に移り住んだ。

水沢から約二百名の人に移住した。掘立小屋をたてて、共同炊事で始まった開拓だったが、小屋は木の皮で葺き、床はむしろをしき、うすべり（へりをつけたござ）の上に寝る生活であった。三年間は政府から、米、味噌を与えられ、くわ、かまなどの農具、なべ、かまなども与えられた。

このようにたいへんな苦勞をしながら荒地を切り開く日々が続いたが、開いた畑には麻がまかれた。これは北海道の工業や漁業開発に最も要求されるロープや網の材料を得るための大事な産業であった。また麻の外に、大豆、稲、りんご、かぶ、玉ねぎも栽培され、平岸の農業はだんだんと有名になっていった。また、温泉をほりあて、『吉川の湯』や『黄金の湯』と名付けたりもした。

十三歳で親と一緒に北海道にわたった鉄之助は、成人になるまで



石碑
(水沢区川原小路にあります。)

父母のもとで農業の手伝いをした。また、札幌農学校（現北海道大学）につとめながら、クラーク博士に学んだりもした。

その後、一八八七年（明治二十年）、第二の新天地を求め、夕張郡長沼村に家族や仲間とともに移り住み、長沼の開拓が始まった。

この時鉄之助は二九歳、妻イシニ八歳、長女いち九歳、次女セツ六歳、長男寛五歳であった。

そのころの長沼村は、川と沼が多く、大木がうっそうと茂る原野で、道路も千歳（現千歳市）に行く道しかないほどであった。

心が大らかで、夢を追ひ、新しいことにチャレンジすることが大好きな鉄之助は、長沼開拓のリーダーとしてがんばり、教習所（今の小学校）や道路、橋の建設、村有財産計画、開拓計画などに取り組み、一八九五年（明治二十八年）には長沼村初めての戸長（今の町長）となった。この時、鉄之助三七歳、村の戸数は九二〇軒に達していた。

また鉄之助は、山歩きが趣味で、千歳川で釣りをしたり、大雪山で熊狩りを楽しんだりした。また、馬を好み、戸長になってからは十キロの道のりを馬で通勤したのも有名なエピソードである。酒を飲んだ夜、馬の上で眠りながら家に帰ることもしばしばあったといわれる。

鉄之助はその後、旭川、樺太などの開拓にもあたったが、一九三一年（昭和六年）、七十三歳でこの世を去り、札幌のお墓に葬られた。そして、『長沼開拓の祖』（開拓をがんばった最初の人）として、一九三七年（昭和十二年）長沼町の役場前に胸像（上半身の銅像）が建てられた。

長沼町と水沢の交流は、一九六一年（昭和三十六年）に、長沼町の人々が当時の水沢市を訪問したのが始まりである。長沼町の七十五周年を祝うため、鉄之助について調べにきたのであった。

それをきっかけとして交流が続き、一九七三年（昭和四十八年）長沼町と水沢市はついに姉妹都市となり、ずっと仲よくしていく約束を交わした。

一九七七年（昭和五十二年）には川原小路に『吉川鉄之助生誕の地』という先の標示板を設置したが、ちょうどその年、長沼中学校の生徒四三二名が修学旅行で水沢を訪れ、水沢中学校生徒と交流している。

そして、一九八七年（昭和六十二年）には、長沼町の百周年を記念し、モニメント『姉妹』が長沼町と水沢市両方に置かれた。その後も小学生の訪問や物産展での展示・販売など姉妹都市としての相互の交流が続いている。

札幌市の南東三十キロメートルにある北海道長沼町は、現在道内でも有数の米どころで、『緑豊かな田園文化都市』として発展している。平成二十一年五月の人口は一万二千二百十人、世帯数は四九四六世帯である。その基礎を築いたのが奥州市生まれの吉川鉄之助だったのである。

***参考文献**

『乙女川の三先人』

『みずさわ浪漫』

小林 晋一 著

水沢市・水沢市観光協会

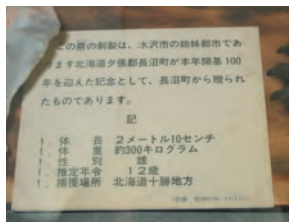


『しまい』
『姉妹』

姉妹都市を記念してつくられたモニュメント（きねんひ）新幹線水沢江刺駅にあります。長沼町の町民会館前にも、同じものがあります。

『ひぐま』

市役所（水沢支所）にあります。姉妹都市を記念して長沼町からおくられた。



長沼町開基100年を記念して水沢市に贈られたひぐま（昭62）奥州市役所（水沢）のロビーにあります